

2026年11月期第2四半期(中間期)決算説明会(オンライン開催) 質疑応答要旨
(開催日時: 2026年7月10日(金) 16時30分~17時15分)

I. 2026年度第2四半期実績

1. 農薬事業

<p>Q. 農薬事業の業績が好調であるが、海外輸出の前倒し受注の影響が大きいのか？ 下期の見通しは？</p>	<p>A. 国内販売、海外輸出とも実質的に伸びていると受け止めている。加えて、海外輸出において中東情勢の影響を受けた前倒し受注があり、これが業績を押し上げた。</p> <p>国内販売は、これまでの普及推進活動の成果が現れていることに加え、水稻剤は前年に続き防除意欲が高いことも後押しした。園芸剤は、普及推進している除草剤ザクサ液剤が前年に続き伸長している。海外輸出は、天然物由来の主力原体カスガマイシンの販売が好調であり、加えて前倒し受注が業績を押し上げた。</p> <p>基本的には、国内販売、海外輸出ともに、これまでの普及推進活動の成果が現れていると認識しているが、下期において、海外輸出の前倒し受注の反動が生じる可能性もあり、慎重に見極めていきたい。</p>
--	--

2. ファインケミカル事業

<p>Q. レジスト用途について、KrF、ArF、EUV、生成AI向け、それぞれの売上高は？ また、2Q(3~5月)の売上高と1Q対比での動向は？ 各用途の下期見通しは？</p>	<p>A. レジスト用原料の売上高11.5億円(前期比▲5億円)のうち、KrFが約9億円(同+0.7億円)、ArFが約2億円(同+0.1億円)、EUVが約0.4億円(同+0.3億円)、生成AI向けが0円(同▲6億円)。</p> <p>また、2Q単体(3~5月)では、KrFは約5.1億円(1Q対比+1.5億円)、ArFが約1億円(同+0.2億円)、EUVが約0.3億円(同+0.1億円)、生成AI向けが0円(同±0)。</p> <p>主力のKrFは、販売先の在庫調整が続いていたが、需要が確実に回復してきたと見ており、期初予想のシナリオに沿って、需要回復による通期での増収を見込んでいる。</p> <p>ArFについても伸びてきており、下期は増収幅の拡大を見込んでいる。</p> <p>EUVは、概ね前期並みでの推移を見込んでいる。</p> <p>生成AI向けは、2025年度4Qから販売先の在庫調整の影響を受けており、当期2Q段階の受注はゼロとなっている。下期は受注が見込まれるが、通期ベースで減収となる見込み。</p> <p>なお、生成AI向けの需要減少は、構造的な問題ではなく、販売先での一時的な在庫調整の影響と認識しており、2027年度以降は需要が回復すると見ている。生成AI向けの中長期的な需要拡大基調に変わりはないと考えている。</p>
---	--

本資料に記載されている業績予想・将来の見通しに関する記述等に関しましては、現時点で得られた情報に基づいて判断・算定したものであり、実際の業績は、今後のマクロ経済動向および市場環境、並びに当社グループに関連する業界動向、またその他内部・外部要因等、さまざまな要因によって異なる結果となる可能性があります。